第14回秋季大会を終えて

元気な中部【岐阜】から創り出そう…成形技術の新展開

熊田 雅 彌*

第14回秋季大会は、平成18年11月22日、23日の2日間にわたって、岐阜市の岐阜大学工学部の校舎で開催されました。前回の中部地区での開催は名古屋(第7回大会)で開催し、今回の開催は岐阜で行うということで、準備に入りました。前々回の京都大会が講演件数・参加者数ともに秋季大会最高の220件・624名、前回の仙台大会が202件・489名であったものの、岐阜には関連企業が多くなく、実行委員会では当初130件・350名程度を予想しておりました。しかし、地元企業のご尽力と実行委員の努力により、嬉しいことに、講演件数204件(一般126件、特別講演2件、ポスター発表49件、地域連携セッション27件)・参加者数610名という盛況な大会になりました。大会スローガンの「元気な中部」そのものが反映し、実行委員一同この展開に喜びと共にほっとしました。

さて、今回の特別講演には、岐阜の長良川と言えば鵜飼ということもあり、文化講演として宮内庁式部職で、鵜匠の山下純司氏に「鵜と鵜匠の語らい」という講演を頂きました。野生の鵜と人間の交わりの中で、生業としての鵜飼がどのようになされているのか、実際に鵜を連れてきて頂いて実演も見せて頂きました。また、学術講演として東京大学の土井正男先生に「高分子の粘着と剥離—ミクロ・メソの視点から」と言う講演を頂きました。粘着材の粘着力や、はく離挙動に大きな影響を与える「キャビティ」が何時、何処で、どの様に発生するか、連続体レベルと分子レベルの両方からご講演頂きました。

一方、特別セッションとして、①自動車関連—素材から評価まで、②高性能・高機能繊維加工技術、③成形加工における「熱、温度、流れ」の解明およびコントロール、④マイクロ・ナノ成形を切り拓く、⑤材料とプロセスをつなぐシミュレーション技術、を企画しました。また、岐阜周辺での成形加工分野のさらなる活性化に繋げることを意図して、地元の企業を中心に、製品・開発・研究の紹介ならびに交流を行う地域連携セッションを企画しました。27社のご参加を頂き、参加企業には大きな刺激と活力を受けたものと思っています。

さらに、「ポスターセッション」を設け、大会に参加された会員の皆様にもベストポスター賞の審査に一部ご参加頂くことで、5件の発表をベストポスター賞として懇親会で表彰させて頂きました。

懇親会は清流長良川の美しい河畔の岐阜グランドホテル

特別講演 (文化)

地域連携セッション

で行いました。160余名のご参加を頂き、大変に盛会な場とすることができました。ホテルからライトアップされた岐阜城を見ながら岐阜の美酒をご堪能戴けたものと思っております。

最後に、経済状況の厳しい折、広告を頂いた55社の企業各位と助成金を頂いた(財)岐阜観光コンベンション協会に感謝申し上げます。また、実行委員会の皆様には、今回の企画・準備・運営にあたり大変ご苦勞をおかけしました。さらに、セッションオーガナイザーやご協力頂いた企業をはじめ、関係各位に、この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

* Kumada, Masaya
岐阜大学 工学部 機械システム工学科
岐阜市柳戸 1-1 (〒501-1193)
2006.12.11 受理